

【山口県光市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築に向け、令和3年1月26日付で中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が答申された。この中で、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた「協働的な学び」とを一体的に充実することが示された。

このことを踏まえつつ、本市では、第2次光市教育大綱及び第2次光市教育振興基本計画に基づき、ICT機器を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力」の定着を図るとともに、「豊かな心」や「健やかな体」の育成により、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を身に付けることを推進している。また、タブレット端末を活用し、誰一人取り残すことのない、児童生徒一人ひとりの個性や特性に応じた、きめ細かな支援を実施している。

2 GIGA第1期の総括

令和3年1月にLTE通信が可能であるタブレット端末を整備し、教室内はもとより、校舎外での学習や各家庭での学習など、様々な場面で「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を実現し、誰一人取り残すことのない支援を実施してきた。

また、クラスメートとリアルタイムで考えを共有することができる授業支援アプリ等を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを推進してきた。

本市のICT活用は、教職員間で授業支援アプリの活用方法の検討、情報共有を行うなど、教職員の様々な取組により各学校に定着しており、令和6年度「全国学力・学習状況調査」の学校質問紙調査によると、授業におけるタブレット端末等のICT機器の使用頻度について、「ほぼ毎日」利用していると回答した学校の割合は、小学校で90.9%（全国平均69.0%）、中学校で100.0%（全国平均67.5%）といずれも全国平均を大きく上回る結果となった。また、児童・生徒質問紙調査によると、学習の中でコンピュータやタブレット端末を活用することで「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」について、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の割合が小学校で90.2%、中学校で94.9%となるなど、児童生徒自身も学習活動でICTを活用する効果を実感していることがわかった。

また、タブレット端末の家庭への持ち帰りについて、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」学校の割合は、小学校で18.2%（全国平均21.9%）、中学校で60.0%（全国平均26.6%）となっており、特に中学校で家庭における日常的な端末の活用

が進んでいる。

一方で、キーボードの利用回数が少ないことが課題であり、次期端末調達においてはキーボードを利用しやすい形状の端末を選定し、利用を促進する必要がある。

3 1人1台端末の利活用方策

本市では、下記の事項について取り組みながら、引き続きLTE通信が可能な1人1台端末を積極的に活用する。

(1) 1人1台端末の積極的活用

各校の教員がICTを有効に活用できるよう、ICT研修を計画的・定期的
に実施する。また、端末の持ち帰りを積極的に実施し、デジタル教科書、授業
支援アプリ等を校内や家庭学習で活用する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」や「自分で調
べる場面」、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「児童生徒同士や教
職員とやりとりする場面」において端末を利用して共通クラウドサービス等を
積極的に活用することにより、学びの充実を目指す。

(3) 学びの保障

不登校や日本語指導が必要な児童生徒、障害のある児童生徒等に対して、端
末を活用した授業への参加や学習活動等への支援を行う。また、適切な支援に
つなげるため、端末を活用した「心の健康観察」の導入を進める。